

2020年7月28日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 552

資産運用オンライン連続講座—
ポストコロナ禍の学校法人経営と適切な資産運用

～ 学校経営不確実性時代に備える独自財源の再構築／
安定収益とリスク管理の両立／
急がれるポストコロナの資産運用シフト ～
【全3回シリーズ】

8月6日(木)・20日(木)・27日(木)

<<オンライン開催>>

ご参画のお願い

「そもそも、学校法人にとっての資産運用とは一体どんな意味があるのだろうか？」

「実務担当者にとっての資産運用業務とは何だろうか？」

「理事・監事は資産運用業務の何をチェックし、判断したらよいのだろうか？」
本セミナーの目的は、それらについて掘り下げて考えてみることにあります。

はからずも、今回のコロナ禍は、学校法人経営の不確実性と、それに対応するための構造的なボトルネックを露呈させるきっかけになったと考えます。

そんな中で、学校法人の財務基盤を支えるための資産運用は今日、いよいよ誤魔化しが効かなくなっており、意思決定の本質が問われる岐路に立たされております。

従来の考え方、方法を続けていったのでは、早晩、行き詰まってしまうのではないかと危惧します。あるいは既に行き詰まっている学校も少なくないように思われます。

時代遅れの認識で時代遅れの意思決定を今日も続けた場合の代償は、学校運営や事業遂行にとって、とても大きく、取り返しのつかないものに容易になり得ます。

間違ったポイント、どうしても良いポイントに焦点を当て続けていると、運用管理業務はどんどん複雑化、ブラックボックスと化し、普通の学校法人やその担当者が本当に

理解、ハンドルできる範囲を簡単に超えてしまう。

そして、学校の財務的な余力を削ぎ続け、ついには法人の将来の展開力をおとしめる

ことにも繋がりがかねません。

今一度、法人が資産運用を実施してゆく上で、最も重要なポイントとは何かを定め、それに集中してゆく、大切な転換の時季を迎えております。

普通の学校法人が自律的かつ超長期間にわたって、資産運用による安定収益や財務基盤の保全を図ろうと思えば、以下のような運用管理スタイル以外、他に適合する考え方は、やり方は無いのではないかと考えます。

(1) 金融市場を代表するオーソドックスなETF（上場投資信託）などを使って、政策的に資産配分された基本ポートフォリオ（各種金融市場の集合体）を構築する。

(2) そのような考え方、資産配分比率を明記した運用計画書・投資方針書に沿って、運用執行、モニター・リスク管理、カバランス(役職員の理解と関与)を実施してゆく。

「なぜそう言えるのか？」

その理由を本セミナーで解説いたします。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ご参画を賜りますよう、お願い申し上げます。また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。

パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/200806.pdf>